

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成17年2月10日(2005.2.10)

【公表番号】特表2000-512209(P2000-512209A)

【公表日】平成12年9月19日(2000.9.19)

【出願番号】特願平10-502258

【国際特許分類第7版】

B 0 1 J 37/20

B 0 1 J 29/08

C 1 0 G 47/16

C 1 0 G 49/08

【F I】

B 0 1 J 37/20

B 0 1 J 29/08 M

C 1 0 G 47/16

C 1 0 G 49/08

【手続補正書】

【提出日】平成16年5月10日(2004.5.10)

【手続補正1】


【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】補正の内容のとおり

【補正方法】変更

【補正の内容】

手 続 補 正 書

平成16年5月10日 

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 平成10年特許願第502258号

2. 補正をする者

名 称 シエル・インターナショナル・リサーチ・
マートスハツペイ・ベー・ヴェー

3. 代 理 人 東京都新宿区新宿1丁目1番11号 友泉新宿御苑ビル
(郵便番号 160-0022) 電話 (03)3354-8623
(6200) 弁理士 川 口 義 雄



4. 補正命令の日付 自 発

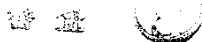
5. 補正により増加する請求項の数 なし

6. 補正対象書類名 請求の範囲

7. 補正対象項目名 請求の範囲

8. 補正の内容

(1) 請求の範囲を別紙の通り補正する。



[別 紙]

請 求 の 範 囲

1. 少なくともひとつの金属あるいは金属酸化物を含有する硫化可能触媒の多孔質粒子を前硫化するための方法であって、
 - (a) 無機多硫化物溶液および少なくともひとつの水溶性酸化炭化水素を触媒に含浸させ、少なくとも硫化物あるいは硫黄の一部が触媒の細孔に取り込まれた硫黄混合触媒を得ること；そして
 - (b) 非酸化性雰囲気の下で硫黄混合触媒を加熱することを包含する方法。
2. 無機多硫化物溶液は、 x が少なくとも3の数値を持つ整数である一般式 $S_{(x)}^{2-}$ の多硫化物イオンを含む、請求項1に記載の方法。
3. 無機多硫化物溶液が、元素硫黄を水性硫化アンモニウムあるいはアンモニウム誘導体溶液に溶解することによって調製される、請求項1または請求項2に記載の方法。
4. 無機多硫化物溶液が、溶液の総重量に基づいて、5重量%から50重量%の範囲の量の硫黄を含む、請求項1-3のいずれか一項に記載の方法。
5. 水溶性酸化炭化水素が、糖類、ポリエチレングリコールおよびそれらの混合物から成る群から選択される、請求項1-4のいずれか一項に記載の方法。
6. 水溶性酸化炭化水素が、単糖類、二糖類およびそれらの混合物から成る群から選択される糖である、請求項5に記載の方法。
7. 水溶性酸化炭化水素が、200から500の範囲の分子量(Mn)を持つポリエチレングリコールである、請求項5に記載の方法。
8. ステップa)に先立って、少なくともひとつの金属あるいは金属酸化物を含む触媒を空気で平衡まで水和する、請求項1-7のいずれか一項に記載の方法。
9. ステップa)の含浸を0℃から60℃の範囲の温度で実施する、請求項1-8のいずれか一項に記載の方法。
10. ステップb)の加熱を50℃から400℃の範囲の温度で実施する、請求項1-9のいずれか一項に記載の方法。

11. ステップb)の加熱を、窒素、二酸化炭素、アルゴン、ヘリウムおよびそれらの混合物から成る群から選択される非酸化性ガスの存在下で実施する、請求項1～10のいずれか一項に記載の方法。

12. 請求項1～11のいずれかに記載の方法によって得られる前硫化された触媒。

13. 請求項12に記載の前硫化された触媒の存在下に高温で炭化水素性供給材料を水素と接触させることを含む、炭化水素性供給材料を転換するための方法。